

# LT・プレゼン班活動報告

宇佐 基史 \*

奥川 莞多 †

坪倉 奏太 ‡

西見 元希 §

2021年8月9日

## 目次

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 1   | 活動概要  | 2 |
| 1.1 | 目的  | 2 |
| 1.2 | 活動形式と実態   | 2 |
| 2   | 参考群   | 3 |
| 2.1 | ニックバーリー プレゼン白熱教室 前編   | 3 |
| 2.2 | なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本〉                                  | 3 |
| 2.3 | 分かりやすい表現の技術 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション<br>15のルール            | 3 |
| 2.4 | How to sound smart in your TEDx Talk — Will Stephen         | 3 |
| 2.5 | The Design of Everyday Things: Revised and Expanded Edition | 4 |
| 2.6 | その他   | 4 |
| 3   | 内容  | 4 |
| 4   | 展望  | 4 |
| 5   | 付録  | 5 |

---

\* 理工学部 3回生

† 情報理工学部 3回生

‡ 情報理工学部 4回生

§ 情報理工学部 4回生

# 1 活動概要

文責：宇佐 基史

## 1.1 目的

”聴衆を想定した、極力感覚ではなく、論理性に基づく有効なプレゼン技術又はスライド作成技術の獲得”を最終的な目標として活動した。特に、班内における正当性の基準を個人の裁量ではなく後述の文献より抜粋し定式化することに重きをおいた。

## 1.2 活動形式と実態

企画立案者が講義形式で知識を共有する形で行われた。週二回同等の内容を取り扱い、班員又は班員以外の会員の参加の自由度を上げた。結果として班員以外の参加者が度々参加することとなり、より実のある活動に繋がったと考えている。活動企画段階では実際に班員のアウトプットを班員同士の講評によりブラッシュアップする工程を予定していたが、企画立案時の予想に反し LT・プレゼン班参加者が偏りの無い講評を得る上で十分な人数を募るに至らなかった為この工程は取り止めとなった。

## 2 参考群

文責：宇佐 基史

### 2.1 ニックバーリー プレゼン白熱教室 前編

2014年7月18日（金）23:00～23:54（NHK Eテレ）

■**選定理由** 著者経歴によって選定した。過去4回のオリンピック招致を獲得しているという経歴があり、近代的且つグローバルに通用するプレゼン技法の観点で信頼性があると判断した。また、内容の汎用性の高さに企画立案者が感銘を受けた点も上げられる。本プロジェクト班発足の動機でもある。

### 2.2 なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本〉

2015/7/31 筒井 美希 (著)

■**選定理由** RCCを含む立命館大学情報系サークルにおけるデザインの参考図書として最も採用されていると判断したため。スライドの制作における技術の参考に採用した。本書の特徴として、豊富な実例が用意されていることが上げられる。

### 2.3 分かりやすい表現の技術 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15のルール

(ブルーバックス) 新書 - 2002/10/23 藤沢 晃治 (著)

■**選定理由** 内容の一般性の高さや「聴衆の想定」の観点で『なるほどデザイン』で言及されていない部分を補う内容を取り扱っていると判断したため。いくつかの大学では教科書として取り扱われている例もある。文字情報が多く『なるほどデザイン』に比べ読みやすさは劣るが後述する当プロジェクト班で最も重要な視点として位置づけられる「聴衆の想定」の観点から参考に相応しい内容であると判断した。

### 2.4 How to sound smart in your TEDx Talk — Will Stephen

<https://www.youtube.com/watch?v=8S0FDjFBj8o>

■**選定理由** 文字情報で伝えることに限界のある、話し方や間の取り方といった部分のプレゼン技術の参考として取り上げた。舞台もTEDという比較的世界に開かれた場であり一般性や学術性の高さが求められる場であり、フォーマットが求められる場合の参考としても有意性が認められた。直接的に

取り扱われている内容も驚くほど薄く、当てはめる情報によって汎用が聞きやすい点もある。単純に内容としてもおもしろいのも選定理由の一つである。

## 2.5 The Design of Everyday Things: Revised and Expanded Edition

2013/11/5 英語版 Don Norman (著)

■**選定理由** 正当性の根拠として一般性や事例数以外に心理学や人間工学と言った観点を取り入れるうえで、この本が結果的に生んだ社会への影響力の大きさから選定した。

## 2.6 その他

正当性の定式化を重要視していることから企画発足時から参考元一覧を明らかにし共有していた。直下の共有リンクには当項目で扱いきれなかったものも記されているため必要があれば参照されたい。配色におけるツールや参考も含まれる。

<https://docs.google.com/document/d/1ReUojti98LAY8zdP3-6teyyv2mknB1J8ozrXNkAYYg4/edit#>

## 3 内容

文責：宇佐 基史

当プロジェクト班において、すべてのプレゼン技術は”聴衆を如何に想定するか”を原理としていると定義した。趣旨、趣向を問わない範囲のプリミティブな内容が主である。付録に総覧としてプロジェクト班を通して取り扱ったプレゼンの技法や注意点をまとめた。実際の班の活動では事例、根拠ともに紹介したが要素だけを端的にまとめると付録のとおりである。また、実際の活動ではスライド作成において有用なツールの紹介や画像データ形式などの初歩的な内容も取り扱ったが総覧では省く。例外としてRCCの活動であることから理系的な内容を扱う場面のプレゼンにおいて意識すべき事項も含まれる。フォーマットが求められる場面のプレゼンの品質を最低限担保するためのチェックリストとして内容、様式問わずに利用が可能であろう。LT・プレゼン班においては明確な成果物は無いが、これをもって成果物としたい。

## 4 展望

文責：奥川 莞多

講義内容においてはコロナ禍におけるオンラインでのLT・プレゼンの変容に対する考察がより深く議論されるべきであった。また、プレゼンにも複数種類があり、それらの違いについて各論を取り扱うべき余地がある。例として、LTや研究室での発表、成果物の発表、製品発表などにおける違い

がある。対話形式の活動が結果的に少なかったことが反省点である。人数が少ないからこそアクティブに対話をすることができたのではないかと考えられる。少人数を生かした活動として大人数の前で話しにくいパーソナルなプレゼンやプレゼンの練習会などがある。しかし、安定して活動に参加できた班員が2人程度だったので、それらを含めて困難であった。定例会議で成果発表をする行程まで実現するべきであった。発起当初に想定していた主な構成員である新入会員への当プロジェクトの活動意義の周知が不足していたことは否めない。改善の余地が大いにある。また、セメスター中間期に入会した新入会員を受け入れる事が他の班に比べ容易な活動形式で有ることを何らかの形で生かせたと考えられる。

## 5 付録

先述した通り、おおまかにまとめた活動内容を以下に添付する。活用してもらいたい。

- 聴衆の想定
  - 内容理解に必要な予備知識の定義
  - 視線の動線の円滑化
  - 情報の優先度の明確化
  - 共通認識の定義
    - ユーモアの成立
    - 文化的タブーの排除
    - 慣用句の有意性
  - 時代性の考慮
    - リッチデザイン・スキューモフィズムの排除
    - 締め方の妥当性の検討
    - コロナ禍的配慮
      - 配色の再考察
      - 異なる通信環境下の公平性の担保
      - スライドの余白の再検討
      - ググらせるなどの実験
      - ※資料価値との両立
  - 聴衆の思考余地の利用
    - 妄想を掻き立てる言葉選び
    - 時間の確保
    - 実験,体験
- 全体構成
  - 3項目からなる要点
  - 三角関数的周期性
  - 要点の反復
- スライド構成
  - ページ数の記載
  - 目次
    - 初期段階での提示
    - 項目毎の進行具合の提示
    - 結びにおける総括としての目次の再提示
  - 注目点の決定(またその手法の妥当性)
    - 変色
      - 原色の採用
      - 地の色との反転

- 拡大
- 余白による孤立
- 姿勢変更
- アニメーション ※非推奨
- 積極的画像表現
  - 媒体的制約の有意性の注意
  - 正確性の担保の注意
  - 伝達速度の確保
  - 言語制約の撤廃
- 配色
  - グラデーションの排除
  - 原色の排除 ※注目点を除く
  - カラーパレットの採用
  - 4色以下の基本色の設定
- 必要情報以外の取捨選択
  - メタ情報の形式化
  - 聴衆の基礎知識の利用
    - アフォーダンス
    - 対応付け
  - 新情報の5個以下制限
  - 箇条書きの利用
    - 非文化
    - 型の明確化
    - 1行
    - 行頭
    - 同一単語の排除
- 音声情報
  - 情報量
    - 日本語→300文字/分
    - 非母国語→訳文 200字/分
  - 情報の差別化
    - トーン
    - 間
- 再現性の向上
  - 練習
    - 本番環境の再現

- 発声を伴う練習
- 理想として本番時間の 60 倍の練習時間
- デバイスのエラー確認
- 緊張対策
  - 練習
  - ルーティンの体得
- 練習
- 練習
- 練習
- 練習
- 練習
- 練習
- 理系的配慮
  - ソースコードの視認性の確保
    - フローチャートによる代用
    - 想定された聴衆のスキルのより厳格な想定
  - 科学的根拠の提示
    - 数値表現
      - グラフによるビジュアル化
        - 配色の注意
        - 立体化の検討
        - 種別の選択
          - 円 →割合
          - 棒 →絶対値差
          - 折れ線 →時間推移
      - 表によるビジュアル化
    - 参考資料
      - 該当スライド化の出展記載
      - 論文形式
  - 質疑対策
    - ページ番号の表示
    - 末尾の参考総覧